

第 5 回 思春期発達研究所倫理審査委員会 実施記録

開催日時	2025 年 11 月 18 日 18 時 00 分 ～18 時 30 分
開催場所	Web 会議
出席委員	緒方委員、立川委員、堀内委員、工藤委員
欠席委員	飯田委員

管理番号	0006
研究課題名	行動療法と ACT(アクセプタンス&コミットメント・セラピー)に基づく 思春期の ADHD 児に対するペアレント・トレーニング：前向き非ラン ダム化比較試験
提出書類	倫理審査申込書、研究計画書、説明・同意文書、利益相反自己申告書
実施施設数	1
結果	承認
特記事項 (承認以外の 理由、)	

2025 年 11 月 18 日

緒方 優 殿

結果通知書

研究課題名：行動療法と ACT(アクセプタンス&コミットメント・セラピー)に基づく思春期の ADHD 児に対するペアレント・トレーニング：前向き非ランダム化比較試験

について、審議の結果「承認」とします。

敬具

記

思春期発達研究所研究所長・ストレスケア東京上野駅前クリニック院長

細川大雅

連絡先：stresscare.tokyo@gmail.com

以上

第 5 回 倫理審査委員会議事録

緒方>今回飯田さんは欠席です。4人で審議します。私は研究責任者なので、3人で審議をします。3人中2人の賛成で、承認となります。

一條>第5回倫理審査委員会をはじめます

工藤>親と子両方に心理検査をやるということか？

緒方>そうです。心理検査の項目に書かれている前半は親、後半は子どもにやってもらうものになります

工藤>子は自己評価できるのか？

緒方>心理検査の信頼性妥当性が担保されていることが重要。検査してもお子さんの実情が反映されていない、他の検査と著しく解離しているなどは心理検査としての質担保されていない。

しかし今回選択した検査は、質が高いとされている。

研究計画書にその説明を記しています。結果は妥当なものが出るとされています。

お子さんだけでは自己評価できないところは親御さんが客観的に評価します。

お子さん、親御さんとして二つの視点からの結果を集めます。

堀内>出来ると思っている子はできると書くし、出来ないと思う子はできないと書くし
その補正するのでしょうか。

緒方>特性による補正はしません。検査結果通りに評価します。

堀内>もともとの発達傾向によって、検査結果がゆがんで答えられることはないのか

緒方>ベースのばらつきはあれど、出したいのは変化量。

堀内>思春期向けということで、P3 のところで加えた要素を読みながら具体的などんな介入はどんなものか。書籍にはそもそも入っていたのか。

緒方>野口先生は児童養護施設の先生。そこでやったペアトレが論文になってはいない。ただ実践として何百人も見ているため参考にしている。

書籍、親子間ルール作りなどが書かれており、それを今回組み込んで研究として効果量を見ます。思春期ならではの要素を加えました。

堀内＞質問紙内容はわかっていないが、質問紙のそれぞれが見えるところが違うのか。

緒方＞13 ページパス図をみてください。これら囲いの中のものは心理検査が違います。

かぶっているものはコナーズと CBCL。それ以外は別の概念を測っています。

それら違う概念を測った結果がどう関連し合っているかをこのパス図が示している。

堀内＞このパス図は想定ですね。

緒方＞そうです。仮説はこの流れです。最終的に、相関が強い、弱いに分かるという流れです。

一條＞それでは、採決をします。

賛成 3 名で可決しました。